

プロモブチド・ペンスルフロンメチル・ベンチオカーブ・メフェナセット粒剤 パワーウルフ 1 キロ粒剤 51	取扱メーカー： クミカ 原体メーカー： 住友化学、クミカ、クミカ、 バイエル
成分： プロモブチド〔酸アミド系〕……………9.0% ペンスルフロンメチル〔スルホニルウレア系〕……0.51% ベンチオカーブ〔カーバメート系 PRTR・1種〕…15.0% メフェナセット〔酸アミド系 PRTR・1種〕……………3.0%	性状： 淡灰色細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

●ウルフエースにプロモブチドを混合し、ホタルイを含むカヤツリグサ科雑草やコナギに対する効果をパワーアップさせた水稲用初・中期一発処理除草剤である。

●スルホニルウレア抵抗性のホタルイやコナギに対して高い効果がある。

●水稲に対する安全性が高く、移植時から使用できる。

●有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

●雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布する。

●多年生雑草は生育段階によって効果にフレがあるので、必ず適期に散布する。

雑草名	散布適期
ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ	2葉期まで
ヘラオモダカ	発生前まで
ヒルムシロ	発生前まで
セリ	再生始期まで
オモダカ クログワイ コウキヤガラ	発生前まで
アオミドロ・藻類による表層はく離	発生前

●オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生前期間が長く、遅い発生のものまでは、十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤と組み合わせて使用する。

●共通注意事項の5. 水稲除草剤散布 使用上のポイントを参照。

【薬効・薬害等の注意】……………

●わい化などの薬害症状が観察された場合にはできるだけ早く落水、中干などの処置をとる。

●直播水稲に使用する場合は下記に注意する。

○発芽直後の稲に対して薬害のおそれがあるので、適正な覆土を行い、稲の1葉期以降に散布する。

○稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので使用をさける。

○除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布する。

●散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。

●移植前に生育したミズガヤツリには効果が劣るので、物理的防除方法などを用いて移植前に防除してから使用する。

●共通注意事項の5. 水稲除草剤散布 薬効・薬害等の注意を参照。

●適用作物（水稲）の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

●適用外作物（いぐさ、れんこん、せり、くわい）への薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】

●魚類、藻類に影響を及ぼすので、使用时並びに使用後も注意。

●散布器具・容器の洗浄水及び空容器は適切に処理する。



【適用と使用法】

作物名	適用雑草名	使用時期	10 a 当り 使用量	使用方法	本剤の 使用回数
移植水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ クログワイ コウキヤガラ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	1kg	田植同時散布機で施用	1 回 ※
		移植直後～ ノビエ2.5 葉期 但し、 移植後30日まで			
直播水稻	一年生雑草 マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離	稲1 葉期～ ノビエ2.5 葉期 但し、 収穫90日前まで		湛水散布	

※プロモブチドを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内

※ペンスルフロンメチルを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内

※ベンチオカーブを含む農薬の総使用回数 : 移植水稻 1 回

直播水稻 2 回以内(入水前は 1 回以内, 入水後は 1 回以内)

※メフェナセットを含む農薬の総使用回数 : 2 回以内